

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



実用新案登録願 (2)

昭和 56 年 2 月 6 日

特許庁長官 島田 春樹 殿

1. 考案の名称 ^{フリガナ} 柱 最 符 装 置

2. 考 案 者 ^{フリガナ} トヨカシ シン セリ ニ シ マ
住 所 大阪府豊中市新千里西町 / 丁目 / 番 / 2 号
^{フリガナ} ナ シ ョ ナ ル 住 宅 建 材 株 式 有 限 公 司
氏 名 ^{フリガナ} 杉 本 和 行

3. 実用新案登録出願人 ^{フリガナ} トヨカシ シン セリ ニ シ マ
住 所 大阪府豊中市新千里西町 / 丁目 / 番 / 2 号
^{フリガナ} ナ シ ョ ナ ル 住 宅 建 材 株 式 有 限 公 司
氏 名 (名称) ^{フリガナ} 山 下 茂 男
代表者

(国 籍)

4. 代 理 人 千 532

住 所 大阪市淀川区西中島4丁目2番26号

氏 名 (8296) 井 澤 土 苗 村

正

5. 添付書類の目録

(1) 明 細 書 1 通
(3) 願 書 副 本 1 通

(2) 図 面 1 通
(4) 委 任 状 1 通

56 016372

57-129804

明 細 書

1 考案の名称

柱取付装置

2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 基礎に植設されかつ高さ調整ナットと締付ナットとを螺着したアンカーボルトと、柱下端を支承する取付板とを具え、該取付板を高さ調整ナットにより高さを調整するとともに、締付ナットとの間で挟着固定し、かつ取付板と基礎の天端との間隙にモルタルを充填したことを特徴とする柱取付装置。

3 考案の詳細な説明

本考案は柱下端部を支承する取付板を、基礎に植設されたアンカーボルトに螺着した高さ調整ナットと締付ナットとの間で挟持固定することを基本として、基礎上面への柱下端の取付槽度を向上させうるとともに施工の能率化を期しうる柱取付装置に関する。

従来、基礎に柱を立設するには、例えば第4図に示すように基礎(4)天端に扁平な直円柱台状のレ

(1)

38

127804

ベル台(b)をモルタルによつて予製しその上面を基準面とし、柱(c)下端部のベースプレート(d)を載置するとともにアンカーボルト(e)、ナット(f)を用いて固定してきたが、モルタルにより正しい基準面を有するレベル台(b)を形成するには、その施工に手間を要しかつ工期が長くなる等非能率的であつた。

本考案はかかる問題点を解決しうる柱取付装置の提供を目的とし、以下その一実施例を図面により説明する。

第1図において本考案の柱取付装置(1)は、柱(p)の下端部を支承する取付板(2)と、高さ調整ナット(3)と補付ナット(4)とを螺着し基礎(9)に埋設されるアンカーボルト(5)とを具える。

取付板(2)は、矩形板状をなしその各コーナ部にはボルト孔(6)を穿設するとともにその裏面には長手にボルト孔(6)の内端を通る2条の補強用リブ(7)が並設してある。アンカーボルト(5)は基礎(9)の側方への膨出部(4)を有する柱取付部に埋設され、該アンカーボルト(5)は下端が、対置したアングル材

間を該アングル材から先端が突出する連結板により接合した矩形棒(11)の、該突出部の各コーナーに溶着されることにより予め正しく位置決めされている。

又該アンカーボルト(5)の上方の突出部(12)には高さ調整ナット(3)と締付ナット(4)(4)とが座金(7)を介し螺着しうる。柱(p)は本実施例では角筒状の鋼管を用いてなり、その下端にはウイングプレートなどにサイドプレートを用いて取付板(2)と同寸の矩形のベースプレート(10)を強固に溶着しており、該ベースプレート(10)には取付板(2)のボルト孔(6)と位置合せ可能なボルト孔(11)を穿設している。

然して図10に示す如く、取付板(2)を、そのボルト孔(6)にアンカーボルト(5)を挿通し高さ調整ナット(3)上の座金(7)と締付ナット(4)との間に取付けるとともに高さ調整ナット(3)を進退させ該取付板(2)の高さを定めかつ水平に位置決めする一方、該取付板(2)上に前記ベースプレート(10)を、アンカーボルト(5)をボルト孔(6)に挿通させ載置しかつ締付ナット⁽³⁾⁽⁴⁾を用いて固定する。なお締付ナット(4)(4)は

ダブルナットとして互いにロックされる。さらに又基礎(7)の天端(4)とベースプレート(10)との間隙部分には無収縮モルタル(4)を充填する。

第8図は取付板(2)のみを高さ調整ナット(3)と締付ナット(4)との間で挟持固定し、ベースプレート(4)は取付板(2)に直接螺結するように形成した本考案の他の実施例を示し、ボルト孔(4)を、アンカーボルト(5)の径よりも大きい長孔状に形成しているため、取付板(2)を移動できることにより取付精度を向上する。

以上のごとく本考案の柱取付装置は、柱下端部を支承する取付板と、高さ調整ナットと締付ナットとを螺着したアンカーボルトとを具える結果、取付板、従つて柱のベースプレートを基礎に精度よく水平に取り付けることができ柱の立設精度を向上するとともに柱を強固に固定することができ又従来のごとく施工困難な前記レベル台を用いて該水平精度を出すばかりに比し施工の能率化を図りかつ柱の仮設に至る。

なおモルタルは柱の仮設前にも又仮設後であつ

(4)

ても打設でき壁体取付前に打設することにより、壁体の取付等施工の進行に伴い増加する柱荷重を負担させうる。又取付板に穿設するボルト孔を第8図に示すように長孔とするばあいにはアンカーボルトの埋設時の誤差を吸収し柱の取付け精度の向上に役立つ。

4 図面の簡単な説明

第1図は本考案の柱取付装置の一実施例を示す分解斜視図、第2図はその断面図、第3図は本考案の他の実施例を示す分解斜視図、第4図は従来型の柱取付装置(1)(2)(3)(4)(5)を示す断面図である。

(1)・・・柱取付装置、(2)・・・取付板、(3)・・・高さ調整ナット、(4)・・・締付ナット、(5)・・・アンカーボルト、(6)・・・ベースプレート、(7)・・・モルタル、(P)・・・柱。

実用新案登録出願人

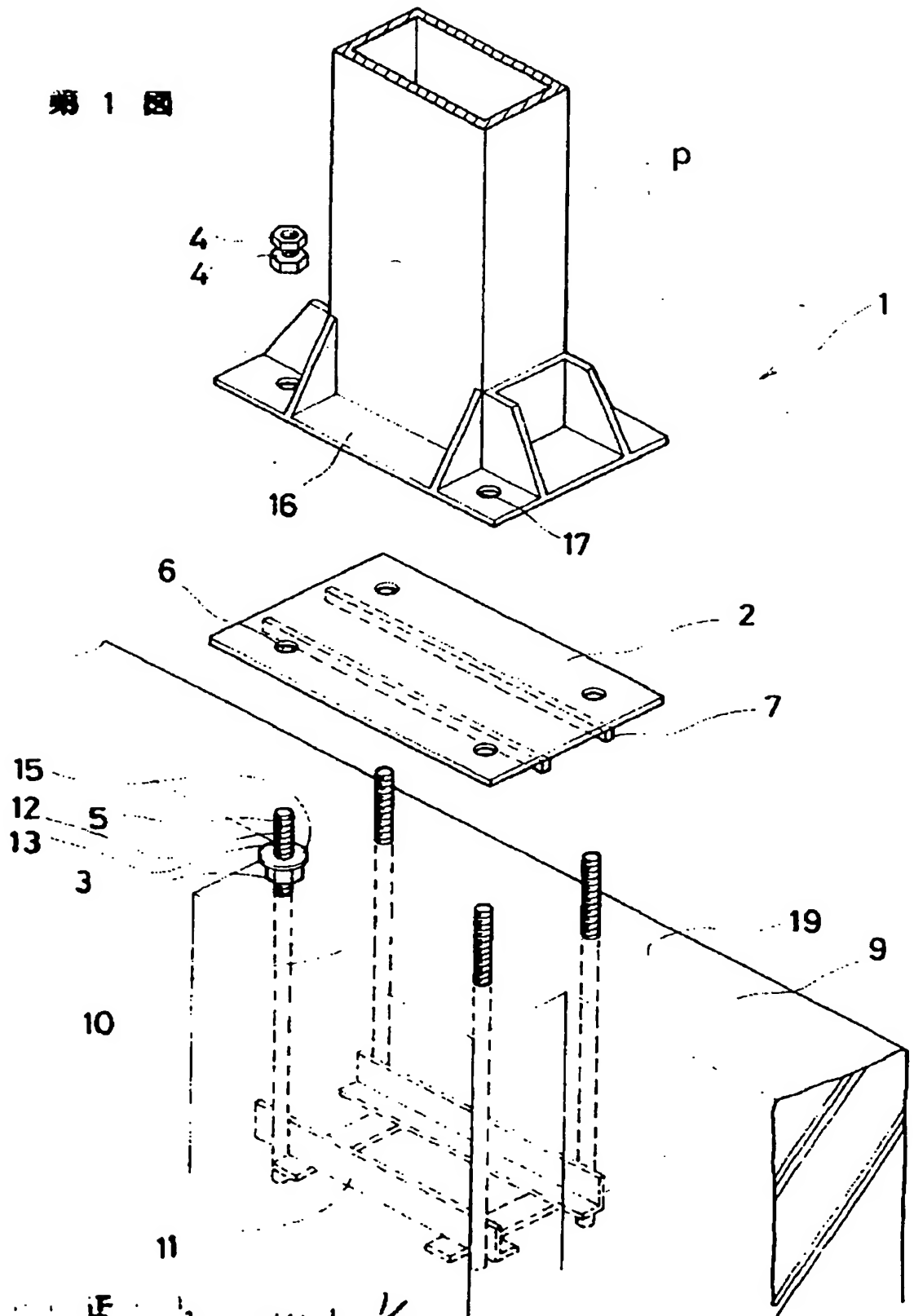
ナショナル住宅建設株式会社

代理人 弁理士

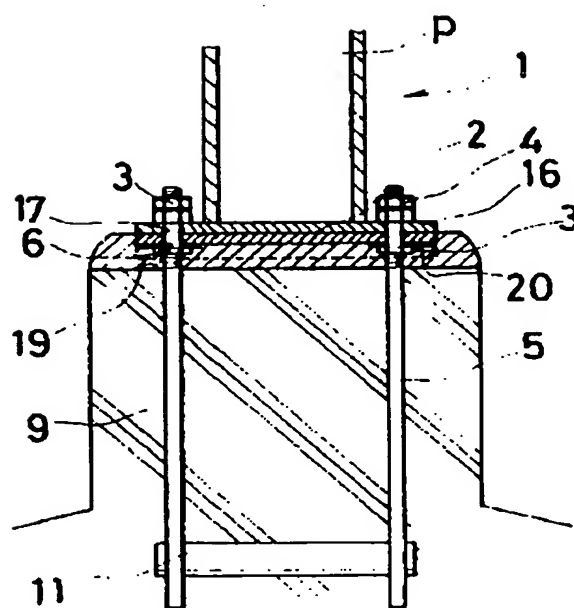
田村

正

第 1 図

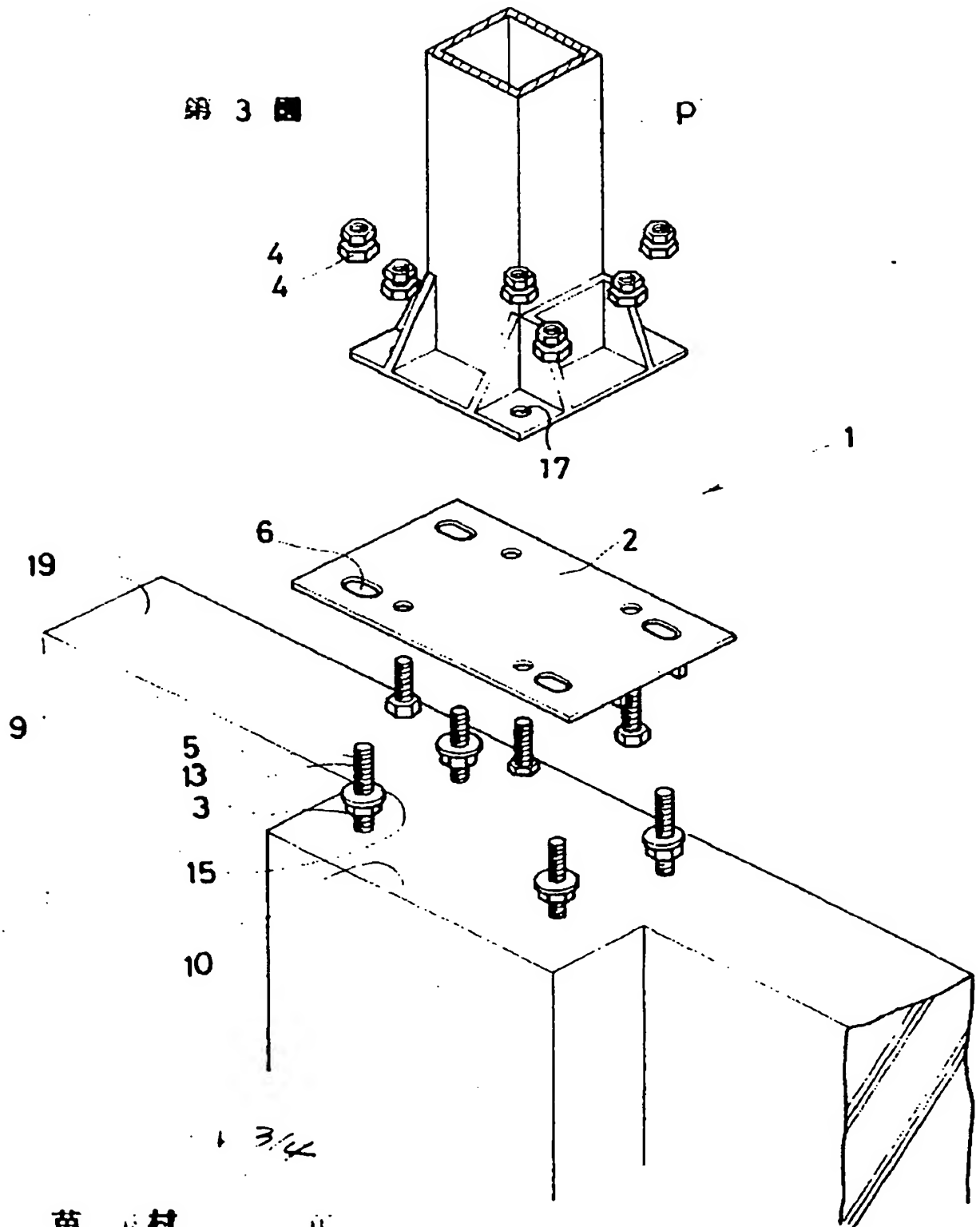


第 2 圖



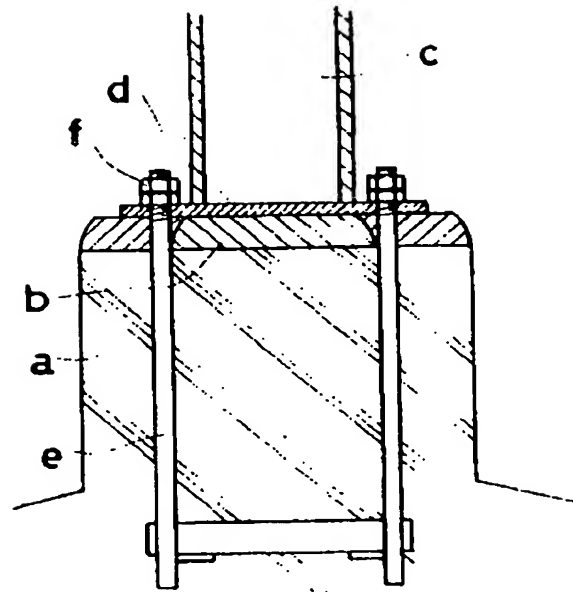
代理人 井 堀 土 苗 村 正

第 3 図



苗 村

第 4 図



代理人 井 堀 士 苗 村 正